

石川県地震概況（令和3年3月）

令和3年4月6日
金沢地方気象台

1. 概況

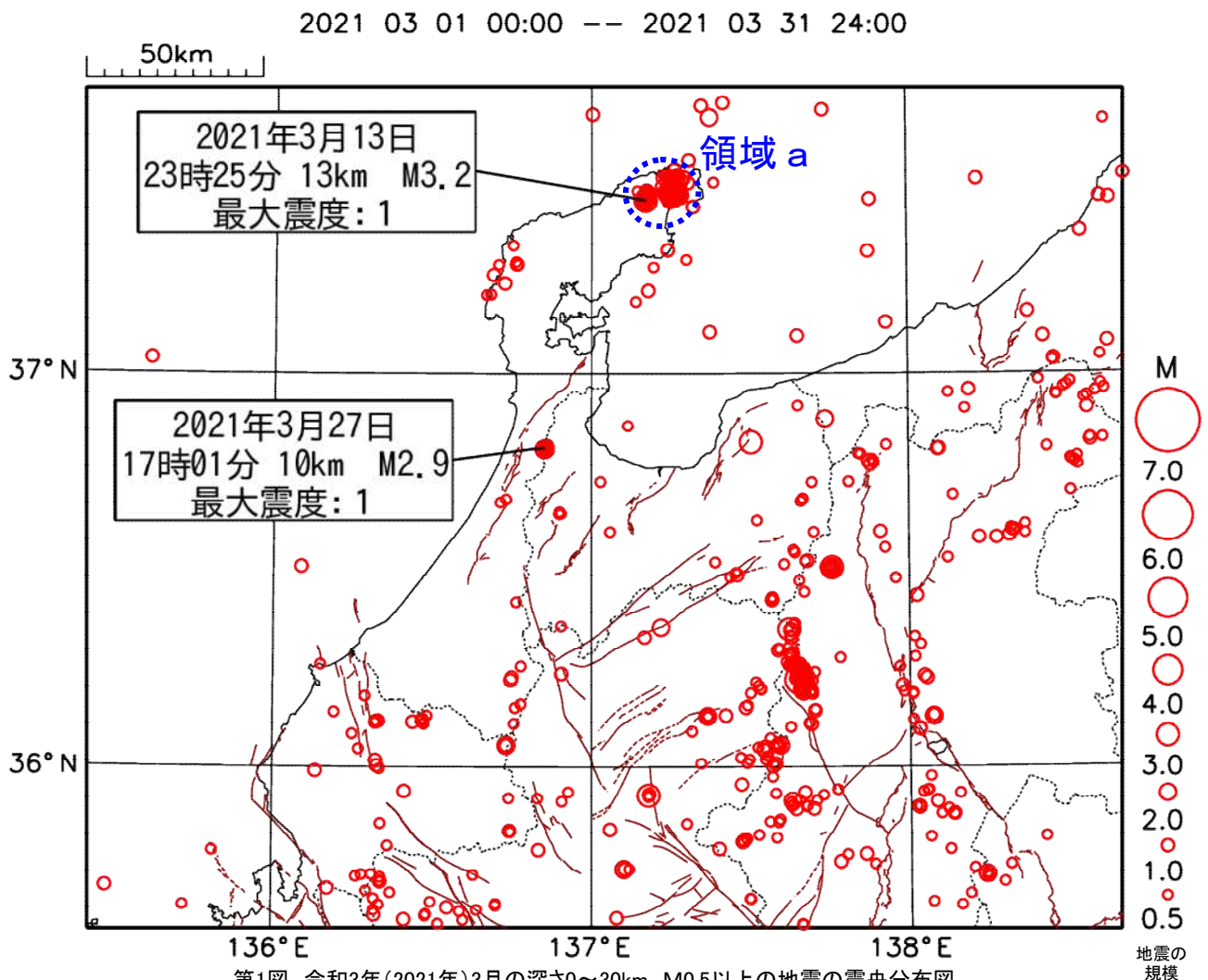
令和3年（2021年）3月に石川県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は3回でした。

石川県能登地方（下図の領域a）付近では13日23時25分にM3.2（深さ13km、能登町宇出津で震度1）が発生するなど引き続き地震活動が継続しています。これらの地震は地殻内で発生しています（5項第2図参照）。

20日18時09分に宮城県沖の深さ59kmでM6.9の地震（図の領域外）が発生し、宮城県で震度5強を観測したほか、県内では珠洲市正院町で震度2を観測しました。この地震により、宮城県などで軽傷者11名などの被害が発生しました（3月22日 総務省消防庁）。この地震は陸のプレートと太平洋プレートの境界で発生しました。

27日17時01分にはM2.9の地震（深さ10km、羽咋市、宝達志水町、かほく市で震度1）が発生しました。この地震は地殻内で発生しました。

2. 震央分布図



第1図 令和3年(2021年)3月の深さ0~30km、M0.5以上の地震の震央分布図
(図の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す)

3. 令和3年(2021年)3月に石川県内で震度1以上を観測した地震の表

地震の発生日時	震央地名	緯度	経度	深さ	地震の規模
① 3月13日23時25分	石川県能登地方	37° 26.3' N	137° 10.3' E	13 km	M 3.2
震度1 : 能登町宇出津					
② 3月20日18時09分	宮城県沖	38° 28.0' N	141° 37.6' E	59 km	M 6.9
震度2 : 珠洲市正院町*					
震度1 : 輪島市鳳至町, 能登町宇出津					
③ 3月27日17時01分	石川県能登地方	38° 48.4' N	136° 51.0' E	10 km	M 2.9
震度1 : 羽咋市柳田町, 羽咋市旭町*, 宝達志水町子浦*, かほく市浜北*, かほく市高松*					

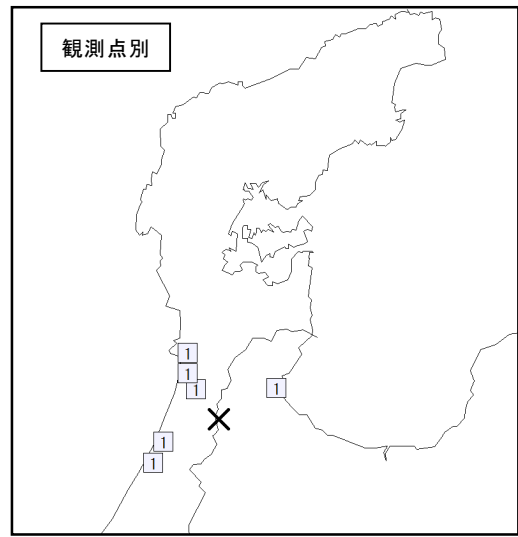
石川県で震度1以上を観測した地震について、石川県内の各地の震度を掲載しています。

*の付いた観測点は石川県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点、他は気象庁の観測点です。

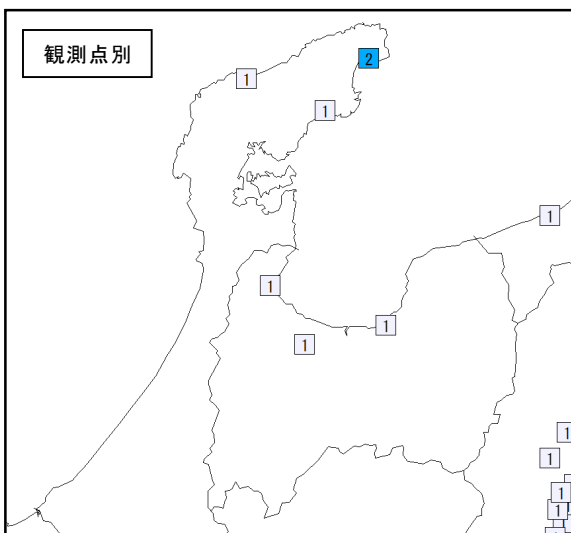
4. 令和3年(2021年)3月に石川県内で震度1以上を観測した地震の震央と震度分布図



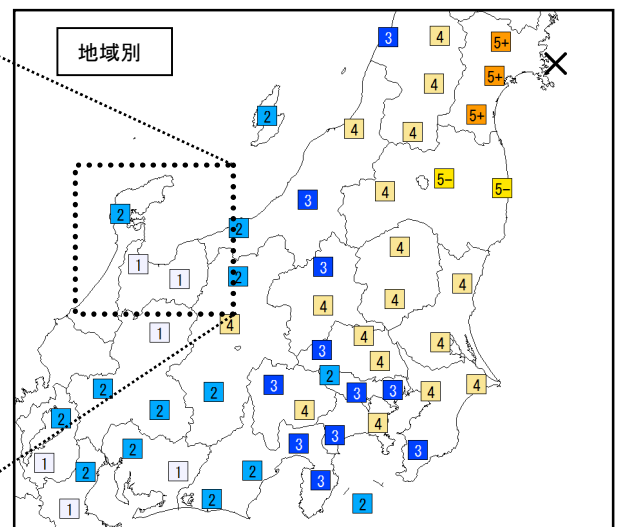
①3月13日23時25分の石川県能登地方の地震
(石川県周辺)



③3月27日17時01分の石川県能登地方の地震
(石川県周辺)

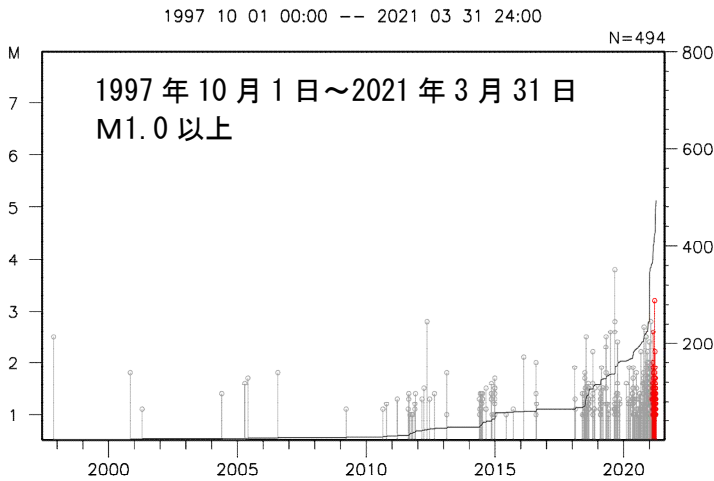


②3月20日18時09分の宮城県沖の地震
(石川県周辺)

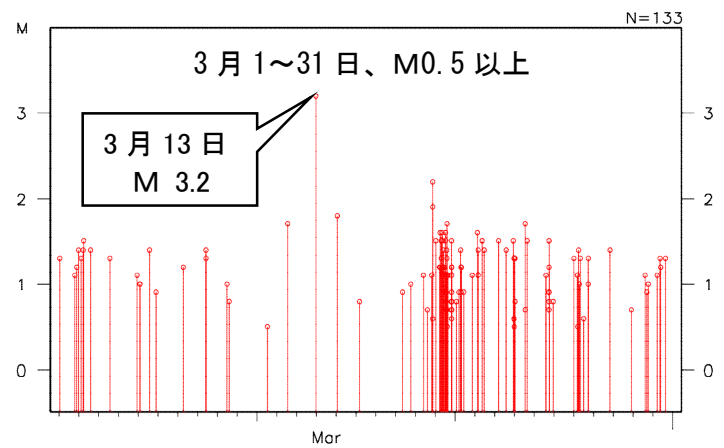


②3月20日18時09分の宮城県沖の地震
(広域)

5. 石川県能登地方の地震（2. 震央分布図中の領域a内）の地震活動



第2図 地震活動経過図及び、地震回数積算図

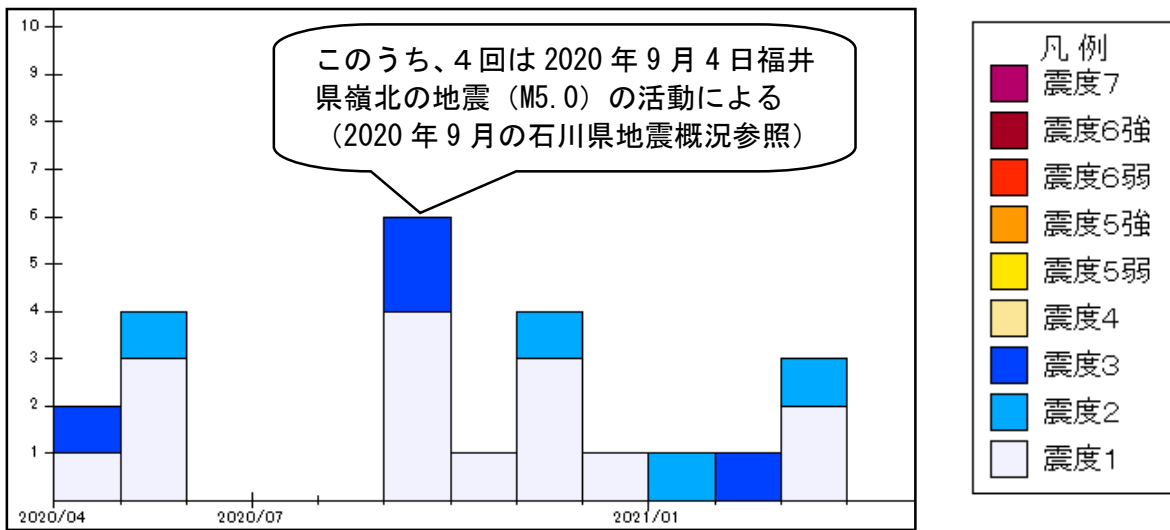


第3図 地震活動経過図

石川県能登地方（第1図の領域a）で、今月は震度1以上を観測した地震は1回でした（先月0回）（3項参照）。

1997年10月以降の活動を見ると、領域a内では2018年頃からまとまった地震活動が見られており、活動は継続しています（第2図）。

6. 過去1年間に石川県内で震度1以上を観測した震度別地震回数のグラフ



この資料は速報であり、後日の調査により修正することがあります。

※この資料に関する問い合わせ先

金沢地方気象台 地震担当 電話番号 076-260-1462

金沢地方気象台ホームページにも掲載しています。 <https://www.data.jma.go.jp/kanazawa/shosai/siryu.html>

「トップページ」>「気象台の刊行物・観測統計資料」>「農業気象速報・気象概況・地震概況・気象年報」から閲覧できます。

※本資料中のデータについて

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国家間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※2020年4月18日から10月23日まで、及び2021年1月9日以降の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られることがあります。

大地震後の地震活動について

大きな地震の後には、多くの場合、その近くで引き続いて多数の地震（余震等）が発生します。普段から大きな地震に備えることはもちろんですが、いざ大きな地震が発生した場合には、その後引き続いて発生する地震にも注意する必要があります。

気象庁は、最大震度5弱以上が観測された等の大地震が発生した場合に、約1～2時間後から、今後の地震活動の見通しや防災上注意すべきこと等について発表しており、その主なポイントは以下のとおりです。

- ・ 1週間程度は、最初の大地震の規模と同程度の地震に注意。
- ・ 特に、地震発生後2～3日程度は、規模の大きな地震が発生することが多い。
- ・ 付近に活断層がある、過去に同程度の規模の地震が続いて発生したことがあるなど、その地域の特徴に応じた呼びかけが気象庁から発表された場合は、そのことも留意。
- ・ 最初の地震の強い揺れにより、落石や崖崩れなどが起こりやすくなっている可能性あり。特に震度6弱以上の強い揺れの地震が発生した場合は、家屋の倒壊や土砂災害などの危険性も高まっているおそれ。もう強い揺れを伴う地震は起きないとは決して思わず、その後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所には立ち入らないなど、身の安全を守る行動を心がけてください。

また、大地震後には、まれに最初の地震よりも強い揺れとなる地震が発生することがあります。「平成28年（2016年）熊本地震」のときは、最初のM6.5の地震後約28時間後にさらに規模の大きなM7.2の地震が発生しました。このことを踏まえて気象庁は記者会見等での呼びかけの際に、まれに、より大きな地震の発生もありうる」と言及することがありますので、その際は2～3日程度はさらなる警戒に心がけてください。

これらのことから地震後は、もう強い揺れを伴う地震は起きないとは決して思わず、その後の地震活動や降雨の状況に十分注意し、やむを得ない事情が無い限り危険な場所には立ち入らないなど、身の安全を守る行動を心がけてください。

なお、「余震」という言葉は最初の地震よりも規模の大きな地震は発生しないという印象を与えることから、気象庁は同指針の指摘に沿い、防災上の呼びかけ等においては、さらに規模の大きな地震への注意を怠ることのないよう、「余震」ではなく「地震」という言葉を使用します。

【参考】大地震後の地震活動（余震等）について（気象庁HP）

https://www.data.jma.go.jp/svd/eqev/data/aftershocks/index_whats_aftershock.html